

# 高津川試験池種苗生産試験

梶田 恭道

県西部の鯉の種苗生産及び配布を行ない、併せて淡水魚の養殖指導と普及を行なうことを目的とした。

## 結 果

### 施 肥

飼育池(500 $m^2$ )各3面と分養池1面を使用し、5月9日1面当たり17袋の鶏糞を施肥した。当初はミジンコの発生が悪く、各池にカイミジンコ(*Herpetocypris* sp.)が爆発的に大繁殖した。

5月14日、カイミジンコが減少し、ミジンコの発生が著しくなった。水温が上昇し始め水が半透明からグリーン、又は、茶色に濁って来たためだと思われる。5月17日、硫酸を1面に追肥したが、アオミドロが発生し始めたので鶏糞だけの追肥におさえた。

### 採卵・ふ化

採卵は5月17日より実施した。親魚にエビステレス症が出ており親魚の状態があまりよくなく卵を採れるだけとり、あとは三刀屋分場より移入する事にした。

5月24日飼育池の中層水をピーカーに採水し、数尾の毛仔を浮泳させて、状況観察をして異常な遊泳行動をとらないか確かめ、翌日飼育池へ放養した。カイミジンコが気にかかったが、施肥当時よりカイミジンコの量が減少しており、放養時には施肥当時の約半分位に減っていた。又、三刀屋分場よりカイミジンコの食害はないという通達もあり、5月25日放養した。

天候がすぐれずすぐ池中に見えなくなったが、晴天の日など水温が上昇すると、池一面に毛仔の姿が見られた。

### 生 産

放養後2日目より水餌を給与した。水餌は煮沸した鶏卵の黄味を布ごした物に、粉末配合餌料小麦粉を調合して水に溶き、池の壁周辺に、1日2日散布給与した。また毛仔が早く餌に寄るように、5日目より吊餌、1池6~8個池壁周辺に置いた。6月中旬よりクランブルに換え短期成長を図った。7月中旬、鰓ぐされが発生し、注水に殺到し、多数斃死があるため、ダイメントの経口投与を6日~7日行った。また、下旬には全種苗を取り揚げ選別し、分養によって大型化を計った。旬別平均水温は図1に示した。

## 配 布

生産種苗の配布は、本年より食用鯉を中止し、溜池用と放流用を中心として行なった。放流用は当才魚、5000尾。溜池用は2才魚、3,137kgであった。

## 指 導

養魚指導としては、主にスッポンに関する病気、産卵、ふ化、その他施設に関する相談に關与した。また、高津川水系の魚病治療に係った。

## そ の 他

シラサギ、ゴイサギの食害について検討するため、警備員と相談し、状況を観察した。その結果網を池周辺に張る事にしたが、今後はもっとよい方法を検討したい。

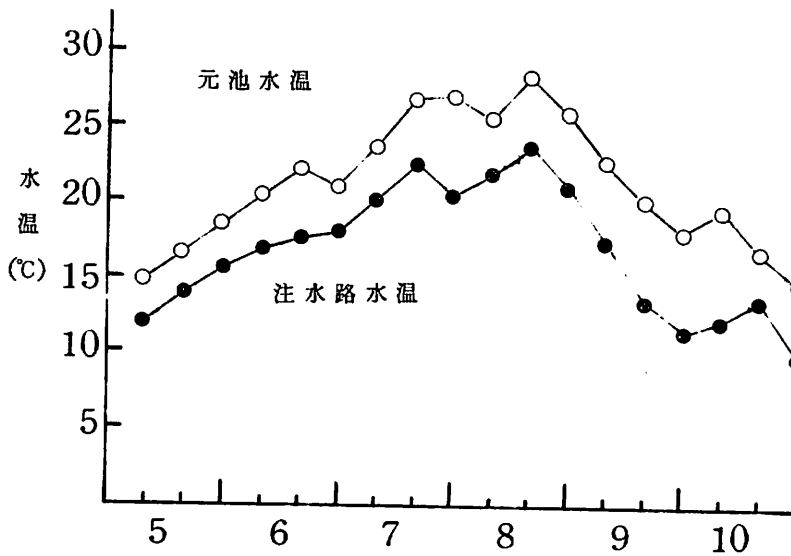


図 I 旬別平均水温(午前10時)